

姫路文学学校準備室第七回

文学の響きが時代錯誤的になっている今の時代に、ささやかで小さな試みを始めています。

かつて神戸には「神戸市民の学校」があり、今も大阪には全国的な規模の「大阪文学学校」が存続しています。個人的に二つの文学を基調にした学校に縁をもたせてもらいました。五十年前のそんな経験がいまだに創作の面白さのワクワク感を保っているのです。(大西隆志)

昨年七月にスタート。講師には詩人/俳人・大橋愛由等氏、二回目は俳人・夏石番矢氏、三回目は川柳作家・大西泰世氏、四回目は詩人・季村敏夫氏。五回目は小説家・千田草介氏。六回目は再登場の大橋愛由等氏。二カ月に一回程の開催で、小規模でやっています。

講義と創作合評の二部に分かれ、講義のほうは文学、文学につながる哲学思想、社会科学などの文化を中心に、幅広いジャンルを取り扱います。創作合評は、自作の詩歌(詩/俳句/短歌/川柳)、小説、エッセイなどを相互に語り合います。

われわれの文学学校準備室は、姫路というトボスに立脚しつつも、同時に地域性を超えた創造力あふれる文学や表現を発信するメディアであることを目指しています。



第7回

日時・7月24日(月曜日)13時30分～17時

会場・ブックカフェギャラリー・クワイエット・ホリデー(Quiet Holiday)2階

姫路市本町68番地/姫路駅からみゆき通り商店街を北へ徒歩7分。国道2号線(東行一方通行)を渡り本町商店街の一本目の角を西に30メートル進む。内藤広告西隣「クワイエット・ホリデー」の2階。

連絡先・090-3714-9387(書肆風羅堂・大西)

◎参加には、自作の詩歌又は小説、エッセイを持参。15部程コピーして下さい。持参できなくても合評会には参加し発言して下さい。楽しくワイワイとやります。

1部の講師には500円のカンパ、ワンドリンク発注が必要です。長時間でもあり菓子等の持込は可能。

自作の作品は当日に配布するので、詩は1～2篇。俳句・短歌・川柳は10句、10首程度。

小説、エッセイは1200字(原稿用紙3枚)程度。

1部講座は13:30より質疑応答含め1時間30分程度。休憩を挟んで17:00まで創作合評。

～予告～

第7回

日時・2023年9月25日(月曜日)

13時30分～17時

会場・ブックカフェギャラリー・クワイエット・ホリデー(Quiet Holiday)2階

講師・京谷裕彰

(詩人・評論家・富士原清一研究者)

テーマは「日本のシュールレアリズム(仮題)」。

※7回目は神尾和寿(詩人/哲学者)による講義。※

「詩と哲学-世界の表現的自己形成としての詩作(西田哲学を手がかりとして)-」

神尾和寿(かみお・かずとし)氏のプロフィール

詩人、哲学者。1958年、埼玉県北部に生まれる。1988年に京都大学大学院文学研究科(哲学科・宗教学専攻)後期博士課程単位取得退学後、国立新居浜工業高等専門学校講師ならびに助教授、流通科学大学助教授(准教授)ならびに教授を歴任し、2018年に早期退職。現在、神戸市立看護大学非常勤講師。

これまでに参加した詩誌として、『祀』、『ノッポとチビ』、『スフィンクス考』、『ガルシア』、『櫻尺』、『交野が原』など。現在、『ガーネット』(編集発行:高階杞一)同人。また、2019年からNHK文化センター梅田教室で講座「詩の楽しみ」を担当。今年の注目の詩集『巨人ノ星タチ』が出たばかり、不穏なおかしみを湛えた神尾ワールドが凄い。

著書等には、詩の分野で、第1詩集『神聖である』(1984年、文童社刊)、第2詩集『水銀109』(1990年、白地社刊)、第3詩集『モンローな夜』(1997年、思潮社刊)、第4詩集『七福神通り—歴史上の人物—』(2003年、思潮社刊)、第5詩集『地上のメニュー』(2010年、砂子屋書房刊)、自選詩集『現代詩人文庫14 神尾和寿詩集』(2011年、砂子屋書房刊)、第6詩集『アオキ』(2016年、編集工房ノア刊)、第7詩集『巨人ノ星タチ』(新刊)。哲学の分野では、論文として、「詩と宗教」(『宗教の根源性と現代 第1巻』(2001年、晃洋書房刊)所収)、「思索的な詩作を詩作的に思索すること ヘルダーリン解釈」(『ハイデガー読本』(2014年、法政大学出版局刊)所収)、他多数。翻訳として、「哲学入門—思索と詩作—」(『ハイデgger全集 第50巻』(2000年、創文社刊)所収)。

主催・姫路文学学校準備室、書肆風羅堂
連絡・姫路市西今宿 3-1-9-702(書肆風羅堂)